

# わたしの修習時代

紀尾井町：1948-70

湯島：1971-93

和光：1994-

43歳

## 平成元年の修習生は あらゆるところで社会勉強



会員 財津 守正 (43期)

私は、昭和63年に司法試験に合格し、平成元年4月から平成3年3月まで修習を受けた。当時、「万延元年のフットボールにちなんで平成元年の修習生か。」と思ったものである。誰か周りの人がきっと同じことを言うだろうと考えたが、誰も言わなかったのが意外であった。

弁護修習は、第一東京弁護士会の赤木巍先生のところでお世話になった。

赤木先生は、ゴルフがプロ級の腕前で、河川敷コースで練習させてもらい本格的なコースにも連れて行っていただき手ほどきを受けた。こちらは完全な初心者であるから赤木先生は大変だったに違いない。私は、アイアンを数本抱えてボールのあるところまで走り、そこで適当なアイアンを選んで打つということをやっていたのだが、そのうち、前のホールにアイアンを1本忘れていたことに気がついた。赤木先生は、最初は、「まあ、アイアンの1本くらいしょうがないな。」とおっしゃっていたのだが、しばらくすると、遠くから「おい、財津くーん。」という声が聞こえ、左手にカートのハンドル、右手にアイアンを掲げた赤木先生の姿が見えた。夏の太陽の光を受けて、赤木先生の姿がまぶしかった。

このようにして修習生として大切に扱われていたのであるが、ある日のこと、赤木先生の秘書が、新聞を見ながら、「ねえねえ財津さん、東京湾クルーズのヴァンティアン号に1500円で乗れるって。明日限りだよ。」と言ってきた。「でもあしたは平日でしょう。」と私が言う

と、「大丈夫、赤木先生は優しいから、いつもこういうことはOKなんだって！私が了解取りつけとくからね。」「いい？ 明日朝10時に現地集合だからね。抜け駆けして事務所に来たりしたら二度と口きかないからね。」というのだ。しかし、翌朝、現地に行ってみると、案の定というべきか、知った顔はどこにもなかったのだった。

この秘書さんから、結婚前には女性はエステに通うのが普通だと言われ、当時の婚約者（現在の妻）を伴って渋谷のエステティックサロンに行ったところ、奥の部屋に通され、1時間たっても誰もこない。おかしいと思い、「まだでしょうか。」と声をかけたが、やっぱりそのまま誰もやってこなかった。店員さんは沢山いるのにどうしてだろうと不思議だったが、このままでは埒があかないと考えて店を出ることにした。その時は訳が分からなかったが、後になって考えてみれば、男性がついてきていたのでは、いつものセールストークが使えないと思ったのだろう。このようなところでも、社会勉強をさせていただいた。

このように書いてくると、まるで勉強はしていなかったように見えるが、そうではない。

赤木先生と親しい弁護士の方との勉強会には毎回参加させていただき、実務の心構えをじっくりと教えていただいた。ある時は、大規模な明渡断行のため、朝7時に現場との約束だったので6時50分に現場に行ったところ、赤木先生の友人の先生は、私よりも早く6時30分に到着されていた。今もこれらの先生からの教えは大切にさせてもらっている。